

地域福祉の充実をめざして、支える心のネットワーク!



赤い羽根共同募金

2019

9

SEPTEMBER



福祉ちば

編集・発行  社会福祉法人千葉県社会福祉協議会

No.183

今月の表紙 「子ども食堂かきつばた」のボランティアスタッフのみなさん▶P8



特集

千葉県外国人介護人材センターの現状と今後の展望

地域の福祉活動

成田市社会福祉協議会「暮らしサポート成田」

エールちば

「公益社団法人SL災害ボランティアネットワーク」の取り組み

地域にひろがる 社会福祉法人の取り組み

社会福祉法人 翡翠会

県社協ニュース

福祉教育研究県大会の報告 ほか

福祉人材関連情報

都賀せいわ保育園・保育士の巻

介護人材の確保・定着を促進するため 外国人介護職員、留学生、受け入れ施設の 問題解決をサポート



相談風景

人材不足が深刻な介護分野の人材確保・定着の促進をはかるため、外国人介護職員や留学生、外国人を雇用する介護施設等に対する相談・支援を一元的に行う「外国人介護人材支援センター」が千葉市中央区にオープンしました。設立の経緯や支援の現状、今後の取り組みについてレポートします。

介護人材の就業を促進する 覚書をベトナム政府と締結

2025年、国の試算によると千葉県では介護職員が約2万8,000人不足すると見込まれています。千葉県はこれまで外国人介護職員を積極的に受け入れてきた経緯がありますが、さらなる人材確保に向けて昨年11月と今年の3月に森田健作知事がベトナムを訪問。ベトナム人の介護人材の就業を促進するための覚書を、同国政府と締結しました。

また「千葉県留学生受入プログラム」への参加を表明したハノイの日本語学校5校と事業協定を結びました。このプログラムは、介護福祉士として県内での就労を目指す留学生を資金面などで支援する県独自の事業です。



センター長の加藤良則さん

このように外国人介護職員の就業促進事業が進むなか、県は千葉県社会福祉協議会への委託により「千葉県外国人介護人材支援センター」（以下支援センター）を設立。介護職を目指す留学生と外国人介護職員、そして外国人を雇用している施設と、雇用したい施設に対して一元的に相談・支援を行って行くことになりました。

オープンしたのは7月1日。森田知事は開所式のあいさつで「千葉県で働いてよかったと思ってもらえるように全力で支援していきたい」と述べました。

相談センターのスタッフは正規職員2名と事務員1名のほか、ベトナム語、英語に対応できる外国人支援コーディネーターがそれぞれ週3日配置されています。

現在、電話、来所、メール等で相談を受けており、相談内容は生活面、精神面、労働環境、行政手続き、修学資金の貸付など多岐にわたっています。

対象者にもれなく届くよう 周知活動を徹底

開所して1か月間の相談件数は28件。そのうち21件が電話によるもので来所は6件、メールは1件でした。また外国人から直接相談を受けたケースは9件です。



外国人支援コーディネーター。左から英語担当の山本美知子さんと長谷部節子さん、ベトナム語担当のグエン・ティ・トゥ・ヒエンさんと三浦テュイさん

センターの周知活動についてはチラシを作成して市町村や市町村社会福祉協議会、高齢者施設に配布しました。さらにホームページも作成しています。

加藤良則センター長は周知活動について次のように説明します。「新聞・テレビ等で開所式のニュースを報道していただいた宣伝効果が大きかったと思います。今後は千葉県国際交流センターや市町村の国際交流協会にもご協力いただき、きめこまかく情報を発信していくとともに、ベトナム語版、英語版のチラシなども作成する予定です。対象者の方にもれなく届くように努めて、より多くの方に利用していただきたいと考えています」

また来所件数が少ないことに触れ「JR

千葉駅から徒歩3分というアクセスの良い場所ですので、ぜひ来所してください。ゆっくりお話できるスペースも設けました」と呼びかけました。

外国人を苦しめる言葉の壁 施設が日本語学習の支援を！

外国人からの相談内容はさまざまです。「介護福祉士の資格取得のための費用や手続きに関することを教えてください」「介護職員として働いているが、母国から家族を呼び寄せたい」という相談もありました。このケースは、地方出入国在留管理局に詳しい手続きを確認してから回答しました。

外国人支援コーディネーターの三浦テュイさんはベトナム出身の女性で若いころに来日。5年以上前から外国人の相談支援に携わっています。「相談者にとって、母国出身のコーディネーターと母国語で話せることは大きな安心につながるようです。泣きながら心の内を語ってくれた方もいました」

三浦さんによると外国人にとって言葉の問題は大きく、日本語のニュアンスを間違えて解釈したために傷ついたり、職場への不信感につながったりすることがあるといえます。

先日、三浦さんは外国人介護職員から「職場で差別を受けている」という相談を電話で受けたのですが、「日本語の意味を取り違えて、日本人の職員との間に誤解が生じている可能性もある」と感じ、来所して詳しく話を聞く約束を交わしたそうです。

「外国人介護職員のみなさんは働く気満々で来日していますが、日本語の習得は大きな苦労を伴います。受け入れる施設は、勤務時間のなかで、日本語の勉強時間をつくって支援してあげてほしい」と三浦さんは考えています。

また「来日した当初は気が張っているので頑張れるのですが、時間がたつと誰もがみなホームシックにかかります。そのような時も気軽に相談していただきたい。私も同じ経験をしているので、寄り添うことができると思います」と語ってくれました。

交流会や制度説明会など 3つのイベントを開催予定

介護施設からの相談内容は「外国人介護職員の求人登録をしたい。マッチングをしてほしい」と求人に関することから「現在、アルバイトとして働いている外国人を正規職員として採用する際の手続きを教えてください」といった制度に関する問い合わせが寄せられています。



7月1日の開所式。前列左から、高齢者福祉事業支援協会代表理事 湯川保氏、千葉県社会福祉協議会会長 石渡哲彦氏、千葉県知事 森田健作氏、千葉県議会健康福祉常任委員会委員長 三沢智氏、千葉県高齢者福祉施設協会会長 田邊信行氏、千葉県介護福祉士養成校連絡協議会会長 小淵隆志氏。後列左から、千葉県健康福祉部長 横山正博氏、ベトナム人介護職員及び留学生3名、チーバくん大使2名、千葉県社会福祉協議会常務理事 鈴木一郎氏

相談の内容によってはケース会議を開催して、スタッフ全員で問題の解決法を話し合っています。「複雑な行政手続きや、難しい心理面の相談も寄せられますが、どのような相談にも真摯に向き合っているように、このセンターが信頼を得られるように、スタッフが丸くなって取り組んでいます」と加藤センター長は、相談支援に取り組むスタッフの姿勢について、このように述べました。

支援センターでは個別の相談対応とは別に、イベントを開催する事業にも取り組んでいます。

一番目は外国人を受け入れる施設に向けた、制度の説明会です。今年度から、在留資格に「介護」が創設され、外国人技能実習制度の対象となる職種に「介護」が追加

されるなど制度が大きく変わりましたが、地方出入国在留管理局から講師を招いて、新しい制度の説明や外国人を雇用する際の制度上の注意点などを話していただきます。

二番目は外国人を受け入れる施設を対象にしたメンタルヘルスに関するセミナーです。精神科医の講師を招き、外国人介護職員の心理面を支援するための留意点などを説明していただきます。

三番目は外国人介護職員と就職希望の外国人、そして施設関係者が一堂に会す交流会です。孤立しがちな外国人が横のつながりをつくる機会を提供します。

以上3つのイベントを、今年度内に2回ずつ開催する予定です。外国人介護職員の就労と定着のために、多くの関係者の参加が期待されます。

主な相談ポイント

- ・家族を日本に呼び寄せるための手続きについて
- ・求人登録したい
- ・日本人との結婚手続きについて
- ・留学生の就労について
- ・求職者と施設とのマッチングについて
- ・仕事やビザのことで相談したい
- ・介護福祉就学資金は利用可能か
- ・所有家屋を外国人介護人材支援に活用してほしい
- ・介護福祉士資格取得の手続きと金額について
- ・人材紹介・通訳依頼について
- ・外国人介護人材の雇用について

(2019年7月現在)

千葉県外国人介護人材支援センター

住所：千葉市中央区富士見2-3-1 塚本大千葉ビル5階
 ※千葉県福祉人材センターと併設
 電話：043-205-4780（代表）
 043-205-4762（相談）
 FAX：043-205-4788
 メール：supportcenter@chibakenshakyo.com

◇受付時間：月曜日～土曜日 10:00～18:00（日曜・祝日は休み）
 ※月・水・金は「ベトナム語」対応の相談員、火・木・土は「英語」対応の相談員がいます
 ◇スタッフ：正規職員2名（県からの派遣職員）、嘱託職員5名（内訳：事務1名、外国人支援コーディネーター（英語2名、ベトナム語2名））



なりたフリーサロンの様子

生活困窮者自立支援制度に基づく事業として 引きこもりの人への支援に取り組む

成田市は県の北部中央に位置し、成田国際空港を擁する活気のある都市です。全国的に人口減少が進むなかで、緩やかに人口が増加しており、現在約13万人が暮らしています。今回は成田市社会福祉協議会(以下、成田市社協)が生活困窮者自立支援制度に基づいて立ち上げた「暮らしサポート成田」の事業と、その事業のなかで重層的に取り組んでいる引きこもりの人への支援を紹介します。

障害者支援事業を行う法人と協働で「暮らしサポート成田」を運営

成田市社協は、生活困窮者自立支援制度に基づいて、平成27年4月から、仕事や生活に関する総合相談の「暮らしサポート成田」を運営しています。

その運営は、知的障がい者の支援事業

を行っている社会福祉法人大成会と成田市社協が事業共同体を設立し、市から業務を受託しています。大成会は市域で数多くの事業所を運営し、基幹型の相談センターも開設しています。

大成会と共同体を設立した経緯について、成田市社協の松田裕児さんに伺いました。

「『暮らしサポート成田』は就労準備支援も行っていますが、大成会の事業所を活用して職場体験ができることは大きなメリットです。また大成会は障がい者向けの相談支援事業を行っているため、より包括的な支援ができると考えました。実際、障がいを抱えている方からの相談が数多く寄せられます」

「暮らしサポート成田」は、

成田市社協の事務所とは別に、成田駅・京成成田駅から徒歩数分という場所に事務所を構えて相談支援を行っています。

アクセスの良さも手伝って、昨年度は新規の相談者数が294人、そのうち来所者が107人でした。自立相談支援事業を行っている県内の市社協の実績と比較しても、件数の多さが目立ちます。

スタッフ体制は市社協3名、大成会2名の計5名の支援員で臨んでいます。相談者が来所するだけでなく、支援員が自宅を訪問して支援活動を行うアウトリーチにも力を入れてきました。

支援員と相談者本人が個別のプラン(自立支援計画)をいっしょに作成し、その計画に沿って自立に向けて取り組んでいます。「仕事」についての相談内容が最も多く、その背景にある「家計のこと」「病気や障害のこと」「住まいのこと」「債務のこと」についての支援も行っています。



「暮らしサポート成田」での相談風景



「暮らしサポート成田」
松田裕児さん



「暮らしサポート成田」
江崎三喜男さん



「暮らしサポート成田」
石橋政則さん

生活困窮者自立支援制度を利用して 引きこもりの人の支援を推進

生活困窮者自立支援法に基づく事業として、引きこもりの人への支援に力を入れて取り組んでいることが成田市社協の特徴として挙げられます。

「生活困窮者自立支援制度の成り立ちを考えると、社会的孤立のリスクが拡大し、引きこもりの人も支援対象にする背景が見てとれます。成田市でもニーズがあることは明らかだったので、この制度を利用して、引きこもり支援を推進していこうと考えました」と、松田さんは話します。

成田市社協は平成26年、まず精神障がい者に限定した「憩いのサロン」(月1回)を立ち上げました。民家を活用したサロンで、引きこもりがちの精神障がい者が集い、仲間づくりや精神のリフレッシュなどを行っています。

その後、同じ場所で社会的な引きこもりの人を対象にした「引きこもりほっとサロン」(月1回)を開設。雑談や情報交換のほか、タケノコ掘りなどのイベントを開催することもあります。この2つのサロンは成田市社協が運営しています。

サロンへの参加を通して 前向きな気持ちを取り戻した男性

一方、社会参加や就労への意欲が高まってきた人のためのサロンが「なりたフリーサロン」(月1回)です。「暮らしサポート成田」の事業で、市の複合施設の会議室を借りて行っています。

静かな環境でゆっくり相談ができるほか、ハローワークの求人情報などを閲覧できるコーナーや、パソコンを自由に使えるコーナーなどを設けました。スタッフといっしょに履歴書を作成したり、模擬面接を実施することもあります。

とはいっても就職の準備支援に偏ると雰囲気が堅苦しくなるので、雑談したり、広い館内を散歩したり、パズルやトランプで遊ぶ活動も行っています。

サロンへの参加を通して、前向きな

気持ちを取り戻した52歳の男性Oさんがいます。

Oさんは脳梗塞を患った後、仕事に就くことが難しくなりました。一時は買い物に行く以外自室から出ない日々を送っていましたが、障害者手帳の申請について市役所に相談したことがきっかけで「暮らしサポート成田」とつながり、「引きこもりほっとサロン」に参加するようになりました。(障害者手帳の対象にはなりません)

「サロンでほかの参加者と話をしているうちに、ポジティブな思考ができるようになったんですよ」とOさん。サロンのキッチンを利用してみんなでカレーをつくる企画を立てて実施したり、参加者を増やすためのアイデアを練って提案したり、今ではサロンを盛り上げていく役割を担うことが、本人のモチベーションにつながっています。

ピアサポーターを配置して 本人が参加しやすい環境を!

当事者支援だけでなく、家族支援にも取り組んでいます。家族を対象にした「引きこもりを社会につなげるミニ講座」(年1回)は本人に寄り添うための考え方や支援の実践例などを学ぶ場で、個別支援も実施しています。

「引きこもり家族交流会」は2~3カ月に1回開催して、日ごろの悩みを語りあったり、情報交換を行ったりしていま

す。ミニ講座と家族交流会は「暮らしサポート成田」の事業です。

さらに成田市社協の事業として、「生きづらさを抱えた方を応援するサポーター養成講座」を年1回実施して、市民サポーターの養成を目指しています。

「引きこもりの相談を受けるからには、本人向けの支援だけでなく、家族が集う場を用意したり、市民サポーターなどの社会資源をつくっていく必要がある」と暮らしサポート成田では考え、重層的な支援体制づくりに取り組んでいます。

引きこもりの相談は基本的に本人からではなく、家族や関係機関から寄せられるため、支援員が本人と会うことが難しいという課題があります。しかし経済的な課題を抱える家庭の訪問支援に取り組む中で、引きこもっている子どもの存在が見えてくるケースがあります。

その場合は本人と話す機会をつくりやすく「家計状況が逼迫しているので、いっしょに就労について考えましょう」と持ちかけることもできます。このケースのように、生活困窮者自立支援制度に基づく事業のなかで、引きこもり支援が効果的に展開できることがあります。

引きこもりほっとサロンにはピアサポーターを配置していますが、「暮らしサポート成田」では、今後は支援員が自宅訪問をする際にサポーターに同行してもらえらる支援の仕組みづくりに取り組んでいきたいと考えています。



なりたフリーサロンの会場「もりびあこづつ」。図書室があって便利で、広々とした館内を散歩する人もいます。

わが身わが命を守るために…セーフティリーダーによる地域活動を推進!



災害ボランティア団体合同の水防訓練

2016年4月に発生した熊本地震。2018年6～7月にかけての平成30年7月豪雨。2018年9月に発生した北海道胆振東部地震。そして、現在も多くの傷跡を残す2011年3月に発生した東日本大震災。近年、自然災害が頻発している日本列島。予測不能な大規模自然災害に遭遇した時は、まず、我が身を守らねばなりません。その時に必要な知識や技術を広めたり、防災や減災に寄与する活動を、首都圏を中心に展開しているのが、今回ご紹介する「公益社団法人 SL災害ボランティアネットワーク」(以下、「公社SL災害ネット」)です。



公益社団法人 SL災害ボランティアネットワーク

「わが身わが命は自分で守る」

「公社SL災害ネット」は、「災害救援ボランティア推進委員会」が認定した、セーフティリーダー(以下、SL)による活動団体です。「災害救援ボランティア推進委員会」は1995年7月に発生した、阪神・淡路大震災の教訓を機に設立。その主な目的は、首都直下地震が発生した時、「わが身わが命は自分で守る」という基本精神のもと、災害救援に役立つSLの養成や、防災啓発活動を行っています。SLに認定されるには、「災害救援ボランティア養成講座」を受講する必要があります。講座

内容はボランティア、防災対策、安全衛生等に関する講義。応急手当、簡易救出活動、放水訓練等の実技。そして、災害時の決断力や、地域の防災活動を学ぶ討議・演習を、原則3日間学びます。

「災害時に役立つ知識や技術を地域に還元」

「災害救援ボランティア推進委員会」が養成したSLの活動母体となるのが「公社SL災害ネット」です。1999年、任意団体「SLネットワーク」として発足。2013年に「一般社団法人 SL災害ボランティアネットワーク」となり、2014年3月、公益社団法人となりました。主な活動内容は、SLが「災害救援ボランティア講座」で身に付けた知識や技術を、自身が暮らす地域に還元し、地域の防災能力の向上を図る。災害時の被害を最小限に抑える、減災に役立つ活動。さらに県や市町村にある他のボランティア団体と、イベントや訓練で連携する等、多岐にわたります。また、若い世代への防災教育にも力を注いでおり、小・中学校や高校などで、防災のお話しや防災ワークショップを実施したり、またブルーシートとロープを使った三角テントの作り方、災害時の応急トイレの作り方など、災害時に役立つ「技」を伝える活動も行っています。さらに、「わが身わが命は自分で守る」には、SLのスキルアップも重要との考えから、内部での教育訓練も定期的実施しており、千葉県では春と秋の年2回、県内の全SLを対象に、訓練や講習を行っています。ちなみに千葉県内には、船橋、



SLボランティアネットワーク常務理事の天寺純香さん(左)と、事務局の瀧口晋介さん



災害ボランティアセンター運営訓練

市川・浦安、千葉中央等、10もの地域ネットワークがあり、各地域ネットワークごとに、自主的に講習、訓練、勉強会等を行っています。なお、地域ネットワークは千葉県のほか、神奈川県や埼玉県にもあり、それぞれ活発に活動しています。

「千葉県災害ボランティアセンター連絡会」の加盟団体として第40回「九都県市合同防災訓練」に参加

「公社SL災害ネット」は千葉県社協及び市町村社協とも強い結びつきがあり、令和元年9月1日に実施された、第40回目となる「九都県市合同防災訓練」にも、「千葉県災害ボランティアセンター連絡会」の加盟団体として参加し、視察に訪れた政府調査団への対応や、大学ボランティアへの手順説明等、重要な役割を果たしました。「九都県市合同防災訓練」は、首都圏9つの都県市(埼玉県、千葉県、東京都、神

害ボランティアセンター連絡会」に加盟する、16団体の1つとして参加した「公社SL災害ネット」。「千葉県災害ボランティアセンター連絡会」の今後について、「災害時、本当に役立つ、実行力のある組織にするために、可能な限り協力したい」と、真剣な眼差しで話してくれた「災害救援ボランティア推進委員会」の事務局長であり、「公社SL災害ネット」の常務理事を務める天寺純香さん。千葉県では、「千葉県地域防災計画」において、県災害ボランティアセンターを千葉県災害ボランティアセンター連絡会(以下、連絡会)が担うことになっています。県内で大きな災害が起きた時に、ひとつの団体、ひとつの市町村では対応できないことが大いに予想されます。そうした時に、様々な団体が集まっている連絡会がお互いに連携し、繋ぐ役目を果たせれば支援の幅も広がると考えます。もちろん課題はありますが、連絡会という枠組みを最大限に活かし、実効性のある取り組みができるよう協力していきたいと思えます。

「新潟県中越地震で知った「被災地の現実」

「2004年10月に発生した新潟県中越地震が、私たちにとって大きな転機となりました」と天寺さん。無論、それまでも地域の防災活動に取り組んでいたものの、支援のために訪れた川口町で、多くのSLが初めて実際に被災地を目にし、支援物資の問題、災害時のトイレの問題、多くのボランティアを受け入れる災害ボランティアセンター運営手法など、「被災地の現実」を目の当たりにしたそうです。以降、SLの活動は、「自分たちの地域が被災地になったらどうなるか」をより真剣に、リアルに考え、備える活動にシフトしてきました。同時に、当時の体験から社協をはじめ、他団体との連携の大切さを、改めて感じたといいました。そして2011年3月11日、東



千葉県45期我孫子講座での救助救出訓練

日本大震災が発生し、千葉県も被災しました。この時SLは、川口町での経験を活かし、千葉県社協と連携し「県災害ボランティアセンター」の立ち上げに連絡会として協力し、旭市災害ボランティアセンターの支援を行ったほか、福島から避難された方々の受け入れなど、様々な支援活動を行いました。「この時もまた、様々な団体と連携しなければ、大災害には太刀打ちできないと実感しました」と天寺さん。

「生きてこそ……」

「公社SL災害ネット」が活動を通じて最も伝えたいことは何か?との問いに、躊躇することなく「災害に遭っても生き残る。それが、私達が最も伝えたいことです」と、答えてくれた天寺さん。いざ災害が発生した時、人々は様々な対応を迫られます。しかし、「災害対応は、生き残った人が出来るもの。そして、その数が多ければ多いほど、災害に対応する力は大きくなるのだ」と。さらに、「生き残るためには、高いところ、雲の上を見る必要はありません。まず、自分の足元を固めるべきであり、そのための知識や技術を、SLがそれぞれの地域で伝える。それが、私たちの活動の重要な意義なのです」と。「わが身わが命は自分で守る」を基本精神に活動している「公社SL災害ネット」。しかしその裏には、「わが身わが命を守る」ことが、他者を守ることにつながる」というメッセージが隠れている気がします。



次世代のSLを募集しています!

「公益社団法人 SL災害ボランティアネットワーク」では、地域で活躍する仲間を募集しています。「災害救援ボランティア推進委員会」が主催する、「災害救援ボランティア養成講座」を受講し、SLの認定を受ければ、どなたでも入会可能です(年会費:2400円)。詳細は「災害救援ボランティア推進委員会」事務局(Tel.03-6822-9900)にお問い合わせいただくか、HP(<https://www.saigai.or.jp>)でもご確認ください。

災害救援ボランティア養成講座

「災害救援ボランティア養成講座」は千葉県内で受講可能です!

◆我孫子市災害救援ボランティア講座(千葉第51期)

【日時】2019年11月2日(土)、3日(日)、9日(土)
 【時間】各日9:00~17:00
 【場所】中央学院大学、我孫子市消防本部

◆船橋市災害救援ボランティア講座(千葉第52期)

【日時】2019年12月6日(金)、7日(土)、8日(日)
 【時間】各日9:00~17:00
 【場所】船橋市役所

地域にひろがる
社会福祉法人の取り組み



翡翠会 統括施設長の大越将司さん



社会福祉法人 翡翠会

主な事業

- 障害者支援施設 ●障害者グループホーム
- 生活介護事業所(2か所) ●放課後等デイサービス
- 認知症高齢者グループホーム ●小規模多機能型居宅介護事業所

法人本部 / 千葉県大網白里市大網5347 山武みどり学園
お問い合わせ TEL.0475-72-9806
HP <http://hisuikai.or.jp>

●認知症カフェを市との協働事業で開催

社会福祉法人翡翠会は、平成12年に設立され、山武地域を中心に障害者福祉施設、高齢者福祉施設を運営しています。

3年ほど前、障害者のグループホームを新設する際、地元で反対に遭ったことから、統括施設長の大越将司さんは「私たち法人の取り組みは、まだまだ地域に浸透していない」と痛感し、何か地域の方々に還元できる事業を立ち上げたいと考えた結果、認知症カフェを市との協働事業という形で始めることになりました。

平成29年度から、小規模多機能型居宅介護事業所「かきつばた」において「カフェかきつばた」を月2回実施。ランチを500円で提供し、地域の誰もが参加できるスタイルで運営しましたが、参加者の数がなかなか伸びません。

●出前講座や子ども食堂で集客効果

そこで「集客のためには仕掛けが必要」と考えて、2年目から新たな企画を打ち出しました。そのひとつが「出前講座」で、保健師や医師による健康講座や、認知症サポーター養成講座を「カフェかきつばた」で開催しました。参加者は前年度の2倍に増加したといえます。



かきつばた全景

●地域のなかで法人の認知度がアップ

8月10日に開催された子ども食堂取材させていただきました。今回も大網ロータリークラブからお米、卵、野菜、果物などたくさんの食材が寄付されました。今日のメニューはオムライスや焼きそばなどで



ボランティアスタッフのみなさん

すが、調理ボランティアの多くは大網ロータリークラブの会員の奥様方です。

今回の子ども食堂では、親子参加型の「認知症サポーター養成講座」が開催されました。受講した小学生の男の子は「認知症のことは全く知らなかったけれど、よくわかった」と言って、うれしそうにオレンジリングを腕につけました。

おなかいっぱい食べた後はスライムづくりやダンス、ゲームで盛り上がり、75名の参加者は満足して帰路につきました。

認知症カフェや子ども食堂の取り組みの成果としてまず挙げられることが、法人の事業について、地域の認知度や理解が深まったことです。たとえば、開設以来、赤字経営だった小規模多機能型居宅介護事業所が黒字に転換しました。

また、取り組みの様子をホームページやフェイスブックにアップしていますが、就職活動中の方が閲覧して「こんな地域貢献活動をしている法人で働きたい」と興味を抱いて、応募してくるケースが増えているそうです。

こういった目に見える成果が得られたことが、取り組みに携わっている法人の職員のみなさんのやりがいや自信にもつながっています。



大網ロータリークラブのみなさん

なぜ人と人は支え合うのか

～第45回県民福祉セミナー～



日 時：令和元年11月14日(木)
14:15～15:45

※本セミナーは、第69回千葉県社会福祉大会終了後に引き続き、同会場で開催するものです。千葉県社会福祉大会の進行状況により、開場時間に変更になる場合がありますので予めご了承ください。

場 所：千葉県文化会館 大ホール(JR本千葉駅から徒歩10分
千葉都市モノレール県庁前駅から徒歩約7分)
ホールには駐車場がありません。公共交通機関をご利用ください。

- 主 催：社会福祉法人千葉県社会福祉協議会
- 対象・定員：1,500名(先着順)定員を超え、参加できない場合はホームページにてお知らせいたします。
- 内 容：講演：なぜ人と人は支え合うのか「障害」から考える
講師：渡辺一史氏 (ノンフィクションライター、映画「こんな夜更けにバナナかよ」原作者)
- 参加費：無料
- 参加方法：所定の参加申込書にて、11月1日(金)までにFAXまたはホームページの参加申込フォームからお申し込みください。
- 申込・問合せ先：社会福祉法人千葉県社会福祉協議会
地域福祉推進部 担当：飯塚、窪田
TEL 043-245-1102
FAX 043-244-5201
URL：<http://www.chibakenshakyo.com>

参加申込フォームはこちらから→



「動けば変わる」福祉教育は地域づくりの原動力！

～千葉県福祉教育研究大会～



8月20日(火)、淑徳大学・千葉キャンパスで「令和元年度千葉県福祉教育研究大会」を開催し、千葉県内から学校関係者や市町村協職員、地区社協関係者など250名が参加しました。

午前中のプログラムでは、宮崎県にある日向市社会福祉協議会の成合進也地域福祉課長より「地域+学校+福祉教育=未来の地域人の育成」と題して、基調講演を行いました。

日向市内の大王谷学園校区では、地域貢献学習を取り入れた福祉教育プログラムに取り組んでいます。大王谷学園校区では、学校がめざすキャリア教育(※「一人前の地域人」の育成)と社協がすすめる地域を基盤とした福祉教育の実践を結びつけることで、子どもたちが「知ってる」、「楽しかった」、「良かった」など、受け身で終わる福祉教育ではなく、能動的、積極的、主体的に学ぶプログラムの企画・構成を行っています。地域貢献学習を取り入れることで、子どもたちに暮らしている地域に関心を持たせ、自らの「気づき」、「考え」、「動く」、そして「また考える」ことの連続が福祉教育の学びのひろがりや深まりが期待できると話していました。これまで大王谷学園校区では、子どもたちが自ら選択・決定した地域課題解決のため、101の地域福祉活動実践に取り組んできました。子どもたちは、自らが動いた「錆付いた手すりのペンキ塗り」や「危険な場所のフェンスの設置」などの結果を通して、「人の役に立つ喜び」、「できる実感」を感じています。子どもたちに「動けば変わる」を実感させることが、子どもたちの主体性を育む福祉教育につながっていると話してくれました。

基調講演後は、千葉県福祉教育推進連絡会議の松山議長(順天堂大学准教授)が進行役となって、成合地域福祉課長と千葉県福祉教育推進連絡会議委員によるトークセッションが行われ、学

校・地域・社協の立場から地域貢献学習を取り入れた福祉教育の魅力と課題について意見を交わしました。

午後は、3つの分散会に分かれ、福祉教育推進校・推進団体として指定を受けた小・中・高校及び地区社協が3年間の取組みに関する実践発表を行い、学校と地域が連携して福祉教育を進める取組みについて熱心に研究協議が行われました。

※一人前の地域人・・・様々な地域・保護者との触れ合いや体験活動等をおして、「私たちの住んでいる日向市や大王谷地区を見つめ直し、学習し、地域のことを知り、地域を大切に。」さらに、「地域のために何かをしよう」というより高い目標設定ができたとき「一人前の地域人」として活動することができる。

今すぐ使える！ ～授業で使える～ 福祉教育プログラム集(障害編)



千葉県社会福祉協議会では、学校関係者や福祉関係者等による「千葉県福祉教育推進連絡会議」を設置し、福祉教育の推進に取り組んでいます。同連絡会議では、千葉県独自の「福祉教育パッケージ方式」の考え方や進め方をわかりやすく説明した「福祉教育ハンドブック ACCESS & SUCCESS」(改訂2版)に続き、学校の授業で活用することのできる、障害分野に関する福祉教育プログラム集を作成しました。

プログラム集には8つのプログラムを掲載しており、基礎的プログラムでクラスの友達との関わりや学校の環境をより良くすることなど身近なことについて考え、発展的プログラムで障害を持つ人たちの抱える困りごとについて気づき、自分たちでできることを考えることができる内容となっています。

以下の千葉県社会福祉協議会のホームページからダウンロードすることができますので、福祉教育の実践にぜひ活用してください。
<http://www.chibakenshakyo.com/info.php?cate=vol1&id=2019040315335741>

社会福祉施設 経営相談専門家相談カレンダー(2019年)

月	会計等(税理士・公認会計士)	労務等(社会保険労務士)	法律(弁護士)
9月	2日(月)・17日(火)	4日(水)・26日(木)	11日(水)・25日(水)
10月	7日(月)・21日(月)	2日(水)・16日(水)	9日(水)・23日(水)
11月	5日(火)・18日(月)	7日(木)・20日(水)	13日(水)・27日(水)

●要予約。一般相談・予約は☎043-245-4450 社会福祉施設経営相談室まで
●詳細はお問い合わせください。 **秘密厳守・相談無料**



千葉県運営適正化委員会 電話043-246-0294
メール support@chibakenshakyo.com FAX 043-246-0298
【受付時間】平日9時～12時、13時～17時(土日祝日・年末年始を除きます)
※来所面談は予約制です。事前にご連絡ください。メール、FAXも可。

千葉県共同募金会からのお知らせ

令和元年10月1日～令和2年3月31日まで

今年も始まります、赤い羽根共同募金は「じぶんの町を良くするしくみ」です

共同募金運動は今年度も10月1日から来年3月31日まで全国的に展開されます。

昭和22(1947)年にスタートしたこの運動は、市民が主体となって地域を良くするしくみとして、発展してきました。

長年にわたりご協力いただいた寄付者の皆様、ボランティアの皆様によりお礼申し上げます。

みなさまからお寄せいただいた募金は民間の福祉施設・福祉団体、NPOやボランティア団体への支援の他、西日本豪雨災害等の大規模災害等支援にも役立たせていただきます。

これからも地域福祉の推進のため、共同募金へご協力くださいますようお願いいたします。



あなたの町の募金は、あなたの町のために使われています。

令和元年度 赤い羽根共同募金ポスター

令和元年度 千葉県の募金目標額 7億円

- 赤い羽根共同募金 4億3千万円
- 市町村歳末たすけあい募金 2億4千万円
- NHK歳末たすけあい募金 3千万円

募金目標額は団体・施設からの要望を受けて作成しています。皆さまの温かいご協力、よろしくお願いたします。

平成30年度 つかいみち



高齢者の地域交流・スポーツ活動(富里市)



子ども達の環境美化活動(九十九里町)



子育てを支援する活動(白井市)

ホームページリニューアル 皆さまの活動の様子が、分かりやすくなりました!!

千葉県共同募金会では、赤い羽根共同募金に寄せられた寄付金を、毎年、県内の2,600件以上の地域福祉活動や草の根のボランティア活動等に助成しています。

このたび、県内の共同募金活動の様子や地域でのつかいみちなど、寄付者の皆さま、ボランティアの皆さまにより手軽にわかりやすく知っていただけるようホームページをリニューアルいたしました。

皆様のお住まいの地域では、どのように赤い羽根募金運動が行われ、お寄せいただいた募金はどう活かされているのか、是非ご覧ください。(ホームページは下部のURLまたはQRコードにてご覧いただけます。)



共同募金は、時代とともに変わる「みんなのため」の募金です

共同募金運動は、第二次世界大戦後、昭和22(1947)年に「国民たすけあい運動」として戦後復興を目的に始まりました。現在では、高齢者や障がい者に対する支援のほか、子ども食堂の運営や地域の交流のための事業など、時代の移り変わりに合わせたさまざまな地域の課題解決に取り組んでいます。赤い羽根募金は、「じぶんの町を良くするしくみ」。長年、運動に携わってきたボランティアの皆さま、寄付者の皆さまに、心より感謝申し上げます。

社会福祉法人 千葉県共同募金会

〒260-0026 千葉県千葉市中央区千葉港4-3 県社会福祉センター 2F
TEL:043-245-1721 FAX:043-242-3338
<https://www.akaihane-chiba.jp/>



地域の情報ひろば

芸術の秋～第48回千葉県身体障害者作品展～

- 日時: 令和元年10月22日(火)～27日(日) 9:00～16:30
- 場所: 千葉県立美術館 第7展示室 (JR・千葉都市モノレール 千葉みなと駅下車 徒歩約10分)
- 主催: 千葉県・社会福祉法人千葉県身体障害者福祉協会
- 入場料: 無料
- 展示部門: (1)書 (2)絵画(日本画、油絵、水彩、絵手紙、色鉛筆画) (3)手工芸 ア ちぎり絵、切り絵、押花、紙、木、ビーズ、皮、布等の作品、編み物等 イ 陶芸、彫刻等 (4)写真
- 問合せ先: 社会福祉法人千葉県身体障害者福祉協会 TEL 043-245-1746 FAX 043-245-1578



家族の日開催～赤い羽根共同募金・第17回ふれあい広場～

- 日時: 令和元年11月17日(日) 10:00～13:30(開会式は9:50～)
- 場所: 浦安市総合福祉センター(浦安市東野1-7-1) (JR新浦安駅北口からおさんぽバスで26番「総合福祉センター」下車すぐ) ※駐車場はありませんので、公共交通機関等でご来場ください。
- 主催: 社会福祉法人浦安市社会福祉協議会 千葉県共同募金会浦安市支会
- 参加費: 無料
- 内容: 参加団体によるバザー、展示・PR ステージ イベントあり
- 問合せ先: 社会福祉法人浦安市社会福祉協議会 事業課 地域づくり班 TEL 047-355-5271 FAX 047-355-5277



「フードバンクちば」事務所(兼 倉庫)移転ならびに電話・FAX番号変更のお知らせ



前回182号(7月19日発行)の特集ページで掲載いたしました「フードバンクちば」の事務所(兼 倉庫)が、8月に下記住所に移転し、電話・FAX番号が変更となりましたのでお知らせいたします。

新住所 千葉市中央区弁天2丁目16-14 (JR千葉駅千葉公園口から徒歩8分)
TEL 043-301-4025 FAX 043-301-4026
URL <https://foodbank-chiba.com> (詳しくは、左記ホームページをご覧ください。)

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

ボランティア活動保険

平成31年度 全国200万人 加入!!

<http://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険 検索

保険金額		Aプラン	Bプラン
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円	1,400万円
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)	1,400万円(限度額)
	入院保険金日額	6,500円	10,000円
	手術 入院中の手術	65,000円	100,000円
	保険金 外来の手術	32,500円	50,000円
	通院保険金日額	4,000円	6,000円
賠償責任	特定感染症の補償	上記後遺障害、入院、通院の各補償金額(保険金額)に同じ	
	葬祭費用保険金(特定感染症)	300万円(限度額)	
	賠償責任保険金(対人・対物共通)	5億円(限度額)	

年間保険料(1名あたり)		
タイプ	Aプラン	Bプラン
基本タイプ	350円	510円
天災タイプ(*) (基本タイプ+地震・噴火・津波)	500円	710円

(*)天災タイプでは、天災(地震、噴火または津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが(天災危険担保特約条項)、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。



保険金をお支払いする主な例

- ボランティア行事用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)
- 送迎サービス補償 (傷害保険)
- 福祉サービス総合補償 (傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

- 団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会
- 〈引受幹事 保険会社〉 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課 TEL:03(3349)5137 受付時間: 平日の9:00～17:00(土日・祝日、12/31～1/3を除きます。)
- 取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763 営業時間: 平日の9:30～17:30(12/29～1/3を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。



『ちば保育士・保育所支援センター』を利用して見つけた、私に最適な職場!



都賀せいわ保育園
勤務歴: 2年目

佐々木愛夢さん(左)
佐藤直美さん

●どのような経緯で『ちば保育士・保育所支援センター』(以下、センター)を知ったのですか

佐々木 以前の職場にいた時、休日に仕事関係の買い物に行ったのですが、買い物した店の隣がセンターの窓口だったのです。ちょうど転職を考えていたので気にはなっていました。

佐藤 結婚を機に千葉市に移り住んだ時から、なぜかセンターの存在は知っていました。登録はインターネットで行いました。

●入社までの流れを教えてください

佐々木 直接窓口に行きました。そこで「どのような保育園で、どのように働きたいか?」と聞かれたので、様々な条件を挙げました。その後、いくつかの保育園を紹介され見学もしたのですが、ある日、突然センターから「良い保育園が見つかりました!」という電話があって(笑)。そして現在に至ります。

佐藤 私は登録はしたものの、すぐに働こうという気は無かったです。ブランクもあり子育て中のため、受け入れ側にとってかなり厳しい条件を付けたので、すぐには難しいだろうな……と考えていました。ですが数日後に「条件に合う保育園が見つかりました!」というメールが来て本当に驚きました。そして見学を申し込み、実際に自分の目で見て、当園で働こうと決めました。それから「園長先生が素晴らしい!」と、コーディネーターさんに言われたことも決め手かも(笑)。

佐々木 それは私も言われました(笑)。

●センターを利用してどのような面が良かったと思いますか

佐々木 コーディネーターさんが実際に保育園に足を運び、客観的にその保育園を評価し、求職している側に適切な情報提供をしてくれることです。

佐藤 対応が素晴らしいですね。安心して面接に行けるような配慮や、細かい情報の提供、日程の調節など、とても話しがしやすかったという印象があります。

●子どもたちと接する上で、心がけていることは

佐々木 子ども、というより人と人として関わるようにしています。大人が言うことをすべて「ハイ」と聞き入れるのが子どもではありません。子どもの意見もあるのです。それをなるべく聞き逃さ

ないように心がけています。

佐藤 自分で考え、自分で動けるような子に育てられるように接しています。先生に怒られる、怖いから言うことを聞く、という考え方は絶対にさせたくないですね。

●保育士という仕事の魅力は何だと思えますか

佐々木 周囲と連携し、子どもの成長を共に喜べること。子ども、保護者、そして私たちが一緒に喜べる仕事は、それほど多くないと思います。

佐藤 子どもたちにとって、代わりの無い存在でいられること。それは1年目の新人でもベテランの保育士でも同じ。このような職業は他には無いと思います。

●今後の抱負を教えてください。

佐々木 保育関係の大学で学び、心理コースを専攻していたので、子どもたちはもちろん保護者の方々も、心理面でのサポートできる保育士を目指したいですね。やはり、子どもの基盤は家庭だと思うので。

佐藤 当面の目標は、発達障害に関する勉強をしたいですね。長期的な目標は、長く保育士を続けるために体力づくりをしたいです。

●これから保育士を目指したいと考えている人にメッセージを

佐々木 自分に合った職場を見つけることが大事だと思います。実際、私はセンターに助けられました。自分に合う保育園を紹介してくれたことに感謝しています。長く働く職場ですから、焦らず慎重に選んで欲しいですね。

佐藤 情報収集が大事だと思います。じっくりと色々な職場を見学すべきですね。私は当園に入って改めてそう思いました。

センターのおかげで最適な人材を確保

当園は定員20名という比較的小規模な保育園ですが、その分、職員を多めに配置し、子ども一人ひとりに向き合える保育園づくりを目指しています。そんな当園では、とにかく明るく前向きで、子どもに真摯に向き合える保育士を求めています。今回ご紹介した2人はまさにその通りの人材で、紹介してくれたセンターには感謝しかありません。今後もよろしくお祈りします!

都賀せいわ保育園

園長 田中けい子さん



『ちば保育士・保育所支援センター』とは…

千葉県が待機児童解消のために、(福)千葉県社会福祉協議会 千葉県福祉人材センターに委託した、保育人材を確保するための事業です。保育士の経験がある、保育士の資格を持っているが現在働いていない方々への就職・再就職の相談・支援を行っています。

FUKUSHI-JOB SEARCH
福祉のお仕事

福祉のお仕事

検索

<http://www.nw.fukushi-work.jp/>



千葉県福祉人材センター TEL.043-222-1294

